

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 6月1日は、低気圧が北日本付近へ進み、高気圧が日本の南へ移動する。
- 2日は、低気圧は千島近海へ進む。前線が華中から西日本付近へのび、東シナ海に低気圧が発生する。
- 3日から4日は、低気圧が西・東日本付近から日本の東へ進む。別の気圧の谷が日本海から北日本付近へ進む。高気圧が華中から東シナ海へ移動する。
- 5日は、低気圧が千島近海へ進み、東シナ海の高気圧はほぼ停滞する。

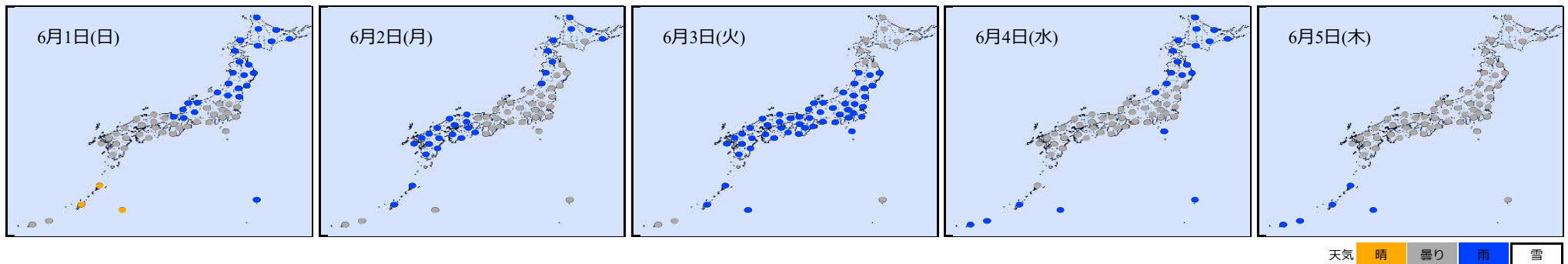
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 6月2日から3日は、西・東日本付近へ進む低気圧や前線の影響で、西日本と東日本太平洋側を中心に大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

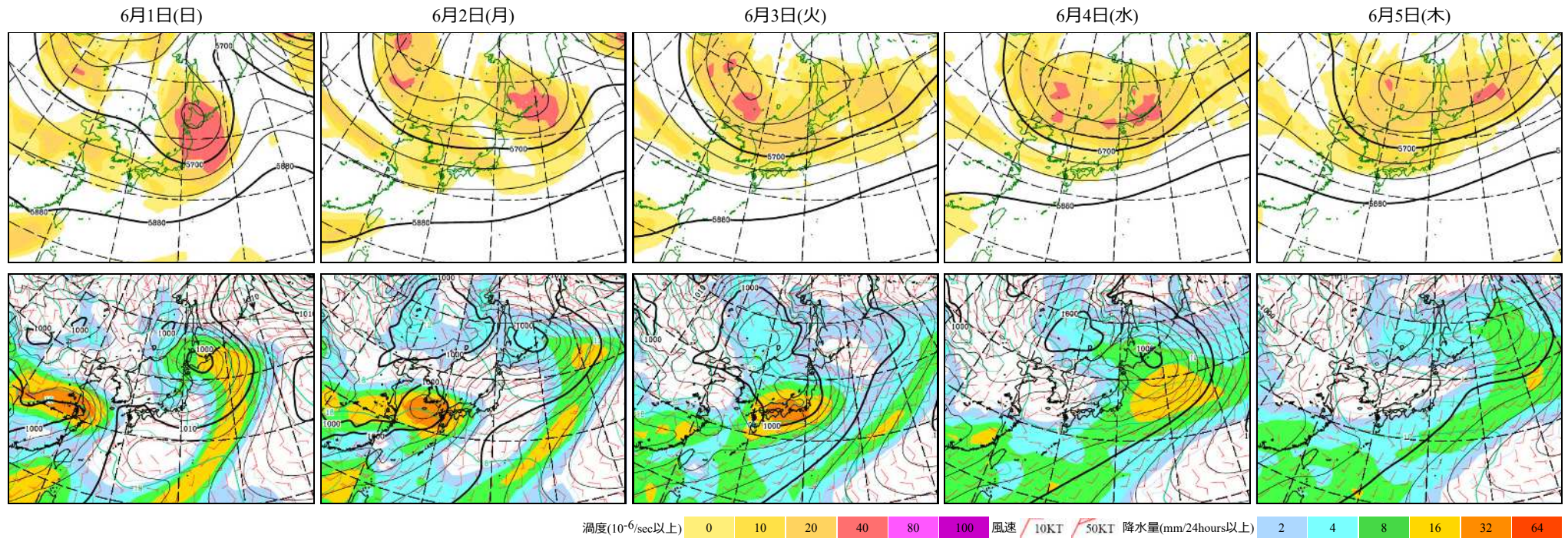
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

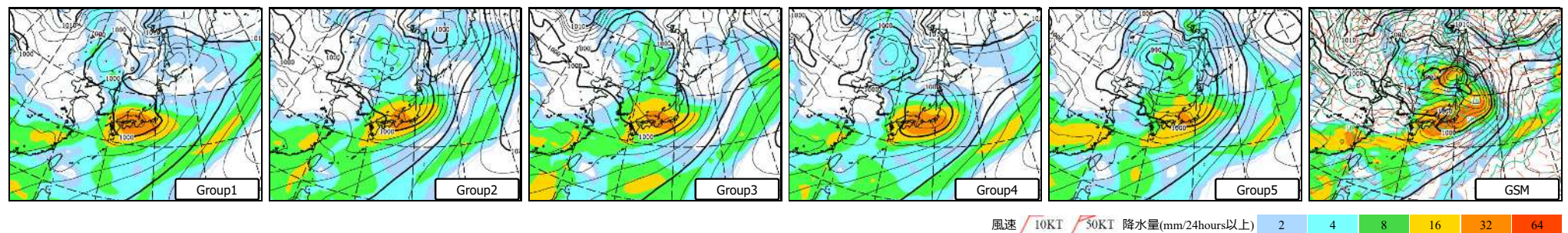


- 北日本から西日本にかけては、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、6月1日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月3日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、6月3日頃は日本海のトラフが深くなり、西・東日本付近を東進する低気圧が明瞭になったことに対応して、西・東日本の降水確率が大きくなった。また、4日は沿海州付近のトラフが深くなり、北日本付近を通過する気圧の谷が明瞭になったことに対応して、北日本の降水確率が大きくなった。
- 2日から3日の低気圧については、各モデルとも九州の西から西日本付近へ進み、東日本南岸から日本の東へ進む予想でおおむね揃っている。また、日本海に気圧の谷を予想しているモデルやメンバーがみられる。
- スプレッドは、期間の後半は大きく、各特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。